

教育臨床心理学

金曜5限 澤田教員

作成：2009年入学 理科1類31組 井上

1, 攻撃

攻撃の種類は意図により2つに分けられる

→ (1)：挑発、不満で生じる熱い攻撃 嫌悪刺激に対する反応

(2)：自らの欲求をかなえる冷めた攻撃 手段としての反応

攻撃の促進 ・3つの代表的理論→ (3)、感情発散説、社会的機能説

・ (4)、(5)、(6) により開始

→ (7)：自己への敵意に敏感な傾向

感情行動の抑制

・ (8) できる相手には攻撃しにくい

・ (9) によって攻撃行動が生じる

KW (10)：攻撃に対する欲求・衝動を別ルートで浄化

→ (10) は神話

2, 恋愛

定義 他者への好意的な (1) を前提に構築される関係

KW (2) : 特定の他者に対して抱く好意の頻度

(3) : 恋人との関係性への会い

ロマンティック・ラブ : 結婚を前提とした愛

要因 (4) や (5) が一因となり行為を抱く場合もある

KW (6) : 強く見るものを好む 近接的状況下で

(7) : 障害が互いの愛情を増幅させる

→ト`朴`きすると相手に行為を抱きやすくなる

類型 恋愛のあり方にはいくつかのパターンに分けられる

• (8) : 提唱者 リー

→色相環になぞらえて配置された類型

恋愛観を説明する

タイプ数 : 6

• (9) : 提唱者 スターンバーグ

→3つの要素の組み合わせによる類型

恋愛の現状を説明する

タイプ数 : 7

3, ストレス

定義 生態に何らかの反応を起こさせる心理的な (1)

KW (2) : 安定を脅かす出来事、刺激

(3) : (2) に対する非特異的な身体反応

不特定の (2) に対する一定の全身的反応

コーピング ・ 目的に応じた (4) 個のタイプ

KW (5) : 目的 ストレッサーの変化 (改善)

(6) : 目的 ストレス反応 (感情) の変化

・ 対処の (7) が精神的健康につながる

KW (8)

ソーシャルサポート ・ (9) 個のタイプ

・ 直接的、間接的に (10) を低める効果がある。(自覚されたソーシャルサポート)

KW (11) サポート : 共感的理論による心理的支援

(12) サポート : 物質、労力による具体的支援

情報的サポート : 環境に関する情報提供

評価的サポート : 自己評価に関する情報提供+支援

4, 妬み

定義 他者が自分より有利なことを見過ごさないシグナル

KW (1) : 関係の喪失に関する不安 (妬みと互換)

妬みの影響 ・ネガティブな行動や心理状態と関連性あり

・ (2) (他者の不幸に対する喜び) とは表裏一体の関係

KW (3) : 健常者に見られる妄想と類似した考え

(4) : 何らかの点で他者と自分と比べること

妬みの対処 様々な対処を使用するものが適応できる

KW (5) : ストレスへの認知・行動的努力=対処

(6) : 状況に応じて使い分け

5, 道德

定義 道德的ジレンマを（１）と（２）に基づき解決する能力

KW（３）：他者の立場から感情や行動を推量する能力

正義の道德 道德性の発達段階１ 提唱者 ピアジェ

→（４）（他者に左右される）から（５）（個人で判断）へ

（６）段階

道德性の発達段階２ 提唱者 コールバーグ

→（７）：行為の公正さを判断する思考

（８）：ルールからの脱却

（９）レベル、（１０）段階

配慮の道德＝（１１） 道德性の発達段階３ 提唱者 ギリガン

→利己主義から非暴力

（１２）レベル、（１３）段階

6, 自己決定

定義 自分の(1)を自らの力で活用していくプロセス

KW (2) への欲求：有能感を得たい 環境と効果的に相互
干渉していく能力

(3) への欲求：強制されずに選択したい

自己決定の特徴 内発的な興味は報酬によって低下する場合がある

KW (4)：報酬によるやる気の減少

(5)：内的な満足の充足に向かう動機付け

→自らの興味により行動開始

目標性：行動＝目的

自己決定と動機付け 動機付けは(6)段階を経て(7)する

(8)と現実自己のすりあわせが重要

現実自己との不一致→(9)に促される

→(10)に促される→現実自己との一致

7, 非行

定義 (1) の対象となる (2) 行為 (少年によるもの限定)

分類 (3) : 14才以上20才未満の刑罰法令違反者

刑事司法モデル→家庭裁判所へ

(4) : 自動福祉モデル→児童相談所へ

(5) : 危機介入モデル→児童相談所 or 家庭裁判所

非行の実態と特徴 ・少年犯罪の低年齢化、凶悪化を示すデータなし

・(6) や心理的問題が引き金となって非行化

KW (7) : 保護者への不服従や犯行 3~8才で発症

(8) : 他者の人権や社会的規範を侵害する障害

(9) : 子供に重大な悪影響を及ぼす養育態度

非行の臨床 非行少年の (10) に主眼を置いた処遇 = (11)

KW (12) : 処分保留のまま一定期間観察下に置く

(13) : 自分の体験を詳細に確認していく作業

8, 知能

定義 問題を解決するための生理的、心理的な (1)

KW (2) : 蓄積された知能に関わる知能

(3) : 頭の回転の速さに関わる知能

知能の構造 複数の要素 ((4) or (5)) によって構成

KW (6) : 知能=全体としてまとまった能力

(7) : 知能=複数の要素からなる能力

→スピアマンの2因子説

サーストンの多因子説

知能の測定 ・特別な支援を必要とする子供の選別のために開発

・ 簡便にスクリーミングしたい→ (8)

・ 細かく、どこが悪いかを知りたい→ (9)

測定法 (10) → 難易度ごとに配列された年齢段階しき問題

(11) → 知能の個人内の差異を示す (学習障害や知能

障害の判定に用いられる)

9, いじめ

定義 一定の集団に特徴的に見られる (1)

KW (2) ←いじめ発生の判定

(3) : 人間関係の操作を通じ攻撃行動

いじめの構造 ・仲間集団の発達に応じて発生頻度も変化

・学級に受けるいじめは (4) から理解可能

KW (5) : ヘタに絡むと自分もいじめられる

仲間集団

(6) : 同じ興味や価値観によって結びついた集団 (児童～思春期)

→ ・ (7) を嫌い、いじめを多発

・他者を介して自己像を確認

ギャンググループ : 共通の遊びなどを媒介として結びついた集団 (児童期前半)

→ 集団生活に必要なスキルの習得

ピア・グループ : 関係性を問い直しながら刺激を受けあう集団 (思春期後半～

青年期)

→ 他者の異質性を受け入れながら自己像を追求

いじめの対応 ・「いじめかどうか？」にこだわりすぎない支援

・ (8) の習得が防止に繋がらない場合も…

KW (9) : ルール違反を理由に問わず罰する

(10) : 不満への対処法の習得

10, 愛着

定義 親と子の間に結ばれる (1) (= (2))

KW (3) : 愛着の発達において探索行動の開始における母

親の役割

愛着の発達と類型 ・ 3才ころまでに形成 : (4) の出現が指標に

・ 「(5)」 によって分離

KW (6) = 8ヶ月不安 : 見知らぬ者からの働きかけに応

じない

(5) の各段階

(7)、安定、(8)、無秩序

愛着の影響 母子関係をモデルとして他者へと広がっていく

KW (9) : 恋愛に影響する成人の愛着

(10) : 他者が求めに応じてくれるとの確信

11, 失恋

定義 恋愛対象の喪失のより一定期間持続する (1)

失恋の原因と経過 ・(2) や (3) などの要因が絡み合っ
て崩壊に至る

・別れの決断は「(4)」から説明が可能

(4) のモデル

(5) モデル：自分と相手の利益のバランスを重視

(6) モデル：関係の満足度+これまでの投資を重視

失恋の回復 失恋からの立ち直り：喪に服する作業の過程

KW (7)：愛情や依存の対象を死によって失うこと

(8)：失った対象を諦めるまでの心的プロセス

(9)：ストレスに対する認知・行動的な努力

解答

<p>1, 攻撃</p> <p>1, 反応的攻撃</p> <p>2, 能動的攻撃</p> <p>3, 内的衝動説</p> <p>4, 学習</p> <p>5, 性格</p> <p>6, 感情</p> <p>7, 敵意帰属バイアス</p> <p>8, 共感</p> <p>9, モデリング</p> <p>10, カタルシス</p>	<p>2, 恋愛</p> <p>1, 感情</p> <p>2, 対人魅了</p> <p>3, コンフルエント・ラブ</p> <p>4, 接触頻度</p> <p>5, 興奮</p> <p>6, 単純接触効果</p> <p>7, ロミオとジュリエット効果,</p> <p>8, 色彩理論</p> <p>9, 三角理論</p>	<p>3, ストレス</p> <p>1, 圧力</p> <p>2, ストレッサー</p> <p>3, 汎適応症候群</p> <p>4, 2</p> <p>5, 問題焦点型</p> <p>6, 情動焦点型</p> <p>7, 使い分け</p> <p>8, 対処の柔軟性</p> <p>9, 4</p> <p>10, ストレス反応</p> <p>11, 道具的</p> <p>12, 情緒的</p>	<p>4, 妬み</p> <p>1, 嫉妬</p> <p>2, シャーデンフロイデ</p> <p>3, 妄想様観念</p> <p>4, 社会的比較</p> <p>5, コーピング</p> <p>6, 対処の柔軟性</p>
--	--	---	--

<p>5, 道徳</p> <p>1, 正義</p> <p>2, 配慮</p> <p>3, 役割取得</p> <p>4, 他律的道徳</p> <p>5, 自立的道徳</p> <p>6, 3</p> <p>7, 正義論</p> <p>8, 脱慣習的</p> <p>9, 3</p> <p>10, 6</p> <p>11, 共感</p> <p>12, 3</p> <p>13, 5</p>	<p>6, 自己決定</p> <p>1, 意志</p> <p>2, コンピテンス</p> <p>3, 自律性</p> <p>4, アンダーマイニング効果</p> <p>5, 内発的動機付け</p> <p>6, 4</p> <p>7, 内在化</p> <p>8, 想定された自己</p> <p>9, 当為自己</p> <p>10, 理想自己</p>	<p>7, 非行</p> <p>1, 処遇</p> <p>2, 逸脱</p> <p>3, 犯罪少年</p> <p>4, 触法少年</p> <p>5, 虞犯少年</p> <p>6, 精神障害</p> <p>7, 反抗挑戦性障害</p> <p>8, 後遺障害</p> <p>9, 虐待</p> <p>10, 強制</p> <p>11, 試験観察</p> <p>12, プロベーション</p> <p>13, リフレクション</p>	<p>8, 知能</p> <p>1, 潜在能力</p> <p>2, 結晶性知能</p> <p>3, 流動性知能</p> <p>4, 因子</p> <p>5, モジュール</p> <p>6, 一般知能説</p> <p>7, 因子説</p> <p>8, 一般知能検査</p> <p>9, 診断性知能検査</p> <p>10, 田中ビネー</p> <p>11, WISC—3</p>
---	---	--	--

9, いじめ	10, 愛着	11, 失恋
1, 人間関係の不全	1, 無条件の信頼関係	1, 悲嘆の経験
2, 認知件数	2, 絆	2, 価値観
3, 関係性攻撃	3, 安全基地	3, 浮気
4, 四層構造	4, 人見知り	4, 社会的交換理論
5, 傍観的被害者	5, ストレンジ・シチュエーション	5, 衝平モデル
6, チャム・グループ	6, 分離不安	6, 投資モデル
7, 異質性	7, 抵抗	7, 対象喪失
8, 社会的スキル	8, 回避	8, モーニング
9, ゼロ・トレランス	9, アダルト・アタッチメント	9, コーピング
10, ストレス・マネジメント	10, 内的作業モデル	

最後に

ものごっつい疲れた…一日で全部まとめて作った力作です(笑

まあほとんどが澤田さんのまとめを○抜きにした問題ですから、これやったら

優が来ると信じています… だめだったらゴメンちょ!!!

では、あと少し頑張りましょう!!!